

今週（10月11日から10月14日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、3連休による4日積み要因の過熱感が剥落した事で、レート水準は徐々に低下する展開となった。

無担保コールO/N物は、引き続き邦銀業態からの調達为中心となった。加重平均レートは、11日は▲0.022%、12日は▲0.026%と、僅かに低下する展開となったが、13日は、積み最終日を翌日に控え、調達に目途を付けた先も多いなか、一部で運用に転ずる先もあった事から、レート水準は更に低下し▲0.033%となった。14日は、積み最終日であると同時に、積み初日にもあたる事から、調達サイドが慎重な姿勢となった事で、一段と低下した水準での取引となった。

ターム物に関しては、積み期間の切り替わりを控え、様子見姿勢の先が多く、動意に乏しい展開となった。

日銀当座預金残高は、484兆円程度からスタートし、週半ばは大きな変動が無いなか、14日に年金定時払いにより、494兆円程度まで増加する見込みとなった。

●レポ市場

今週のGCT/Nは、▲0.085～▲0.075%のレンジでの取引となった。積み期間が終盤となる中、様子見姿勢を強める参加者も見られたものの、レート水準は、週を通して安定的に推移した。

SCは、カレント銘柄近辺や、チーパスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、動意なく閑散となる中、レート水準は横ばい圏での推移となった。

14日に実施された3M物(1114回)入札は、年末越えの担保需要がやや後退した事や、発行額が前回(1113回)から6兆円に増額されている事などが影響してか、弱めの結果となった。しかし、結果発表後のセカンダリーマーケットでは底堅く推移した。

12日に実施された短国買入オペは、前回と同額の1,000億円でおファーされ、按分利回り較差+0.016%、平均利回り較差+0.018%と弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、営業日数が少なかったものの、石油、電機等の幅広い業態から大型発行が見られた。週間では、償還総額5,000億円弱に対して、発行総額は8,000億円程度となり、発行超のマーケットとなった。

市場残高は25兆円台半ばでの推移となっており、緩やかな拡大が続いている。

発行レートに関しては、銘柄毎に差があるものの、総じて買い手の玉確保ニーズは堅調で、引き続き0%近辺から若干のプラス圏での決着が中心となった。

また、12日にはCP等買入オペが事前予定通り4,000億円おファーされた。結果は按分落札レート0.001%、平均落札レート0.006%といずれも低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
10/10 (月)						
10/11 (火)	26,401.25	0.249	145.73	△ 0.022	△ 0.081	4,840,300
10/12 (水)	26,396.83	0.250	146.18	△ 0.026	△ 0.084	4,858,800
10/13 (木)	26,237.42	0.245	146.85	△ 0.033	△ 0.086	4,854,500
10/14 (金)	27,090.76	0.245	147.37	△ 0.042	△ 0.086	4,930,900

来週（10月17日から10月21日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
10/17 (月)	8月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 8月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)				
10/18 (火)		20Y 12,000億円 10/19発行			9月の米鉱工業生産・設備稼働率
10/19 (水)	富山県金融経済懇談会において安達審議委員講演	TB1Y 35,000億円 10/20発行			9月の米住宅着工件数 米ページブック 9月のユーロ圏消費者物価指数改定値 9月の英消費者物価指数
10/20 (木)	9月の貿易統計(財務省 8:50)				9月の米中古住宅販売
10/21 (金)	9月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 60,000億円 10/24発行			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/17 (月)	300	▲ 40,900	▲ 40,600	国債買入 国債補完 CP買入		1,200 14,000 ▲ 500	18,700	▲ 21,900	TB3M発行▲60,000 償還56,000 5Y発行▲25,000 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3,000 償還1,600
10/18 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	
10/19 (水)	▲ 1,000	▲ 12,000	▲ 13,000				0	▲ 13,000	20Y発行▲12,000
10/20 (木)	▲ 1,500	5,000	3,500				0	3,500	TB1Y発行▲35,000 償還32,800 エネルギー対策借入▲6,500 期日6,500
10/21 (金)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
週間合計	▲ 3,200	▲ 43,900	▲ 47,100	—	13,500	5,200	18,700	▲ 28,400	

10/17は日銀予想、10/18以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、新積み期間となりレート水準の低下が見込まれる。しかし、週初はレート目線が定まり辛く、慎重な姿勢を取る先が多くなる事が予想される。債券レポGC O/N物は、積み序盤の取引となる中、▲0.09～▲0.075%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、19日に1Y物、21日に3M物の入札実施が予定されている。また、18日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、事業法人の発行需要は引き続き堅調に推移すると考えられ、レート動向や市場残高の推移が注視される。

主要なイベントは、国内では、21日に9月の全国消費者物価指数、海外では、19日に米・ページブック、9月のユーロ圏消費者物価指数改定値、9月の英消費者物価指数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入